

指導資料

 鹿兒島県総合教育センター

英語 第64号

— 高等学校，特別支援学校対象 —

平成19年10月発行

4領域の関連を図った英語科学習指導の在り方

従来，高等学校外国語科の目標を達成するために行われていた言語活動は，「聞くこと」，「話すこと」，「読むこと」及び「書くこと」の4領域に分けられ，それぞれ独立した活動として扱われる傾向にあった。

これに対し，実際のコミュニケーションにおいては，言語活動が複数の領域にわたって行われることが多い。例えば，子どもが親に叱られて弁解したり（聞く＋話す），生徒が新聞で読んだ内容について意見をまとめ，さらに口頭で発表したりする（読む＋書く＋話す）場合のように，複数の領域が統合され，相互に関連を持たせた活動となることが多い。

このようなことから，現行学習指導要領は，中学校の学習を踏まえながら，4領域の有機的な関連を図ったコミュニケーション活動の指導を行うことで，学習が实际的で効果的なものとなることを目指している。

しかしながら，高等学校においては，科目別に指導が行われることから，例えば，「英語Ⅰ」での訳読や「ライティング」での英作文の指導といったように，指導が一つの領域に偏りがちであり，他の領域と関連付けた指導が十分になされていないのが現状である。

そこで本稿では，言語活動の指導の現状を

踏まえつつ，4領域の有機的な関連を図った指導の在り方について述べる。

1 「英語教育改善実施状況調査」結果から

全国の公立高等学校3,779校を対象に実施された，平成18年度「英語教育改善実施状況調査」結果の中から，「授業における教員の英語使用状況」（表1）と「生徒の英語使用状況」（表2）を以下に示す。

表1 授業における教員の英語使用状況

	中学校	高等学校 ※2	
	平均※1	OC I	英語Ⅰ
教師が，大半又は半分以上は英語を用いている	34.5%	53.3%	9.6%
英語を用いることはあるが半分又はそれ以下(未滿)である	65.5%	46.7%	90.4%

※1 中学校は，第1～3学年の授業の平均を示す。
 ※2 高等学校については，国際関係(語学を含む)の学科・コースを除く。なお，OC Iは「オーラル・コミュニケーションⅠ」を示す。

表2 授業における生徒の英語使用状況(英語Ⅰ)

	毎回又は時々行う	あまり又は全く行わない
㉞ 英語で生徒同士が対話する	44.4%	55.6%
㉟ 英語でまとまった内容の英文を書く	36.0%	64.0%
㊱ まとまった内容の英文を聞き，その概要等を理解する	66.9%	33.1%
㊲ まとまった内容の英文を読み，その概要等を理解する	79.3%	20.7%

調査結果から，総合的な言語活動が求められる「英語Ⅰ」において，教員が使用する英語が少ないため，「聞くこと」の活動

が少ないこと（表1）や、「聞くこと＋話すこと」、「書くこと」（表2⑦, ④）の指導が十分に行われていないことが分かる。

2 「有機的な関連付け」とは

学習指導要領では、「有機的な関連付け」が二つの側面からとらえられている。一つは、「実践的なコミュニケーション能力」を養うためには、生徒が実際に情報の受け手(receiver)や送り手(sender)となってコミュニケーション活動を行う必要がある、その際、言語の使用場面(language-use situations)や言語の働き(functions of language)を有機的に組み合わせることにより、活動を実践的なものとするのが重要であるというものである。もう一つは、ある領域における能力を伸ばすためにその領域の指導だけを行うのではなく、「一つの領域に重点を置いて学習する場合でも、他の領域と関連付けて総合的・有機的な活動を行うこと」、すなわち「4領域の有機的な関連付け」が必要であるというものである。本稿では、後者について扱う。

英語Ⅰ及びⅡでは、総合的なコミュニケーション能力を育てる指導を行うことが求められている。一般的に生徒は、英語を話せるようになることに強い希望をもっているが、実際は話すべき内容がなかったり、話したいことがあっても、それをどのような英語で表現したらよいか分からなかったりすることが多い。また、書くことの活動においても話すことと同様に、何について書いたらよいか分からなかったり、書きたいことがあってもどのように英語で表現し

たらよいか分からないで当惑したりすることが多い。したがって、話すことや書くことを、聞くことや読むことと有機的に関連付け、英語を聞いたり読んだりする中で、自分なりの表現内容を考えさせたり、それをどのように表現したらよいかについてヒントを得させたりすることが大切になる。

また、オーラル・コミュニケーションⅠ及びⅡにおいては、「聞くこと」及び「話すこと」の音声の領域にかかわる指導が重視されているが、例えば、自分の考えをもち、それを相手に話すためには、事前に関連する内容の英文を読んでおいたり、自分が言いたいことをメモなどに書いておいたりすることが役立つ場合が多い。

さらに、リーディングやライティングにおいても4領域を有機的に関連付けた指導例が示され、次のようにまとめられる。

(1) リーディングの例(説明文を読む活動の場合)

- | | |
|---|---|
| ① | 事実を伝えている部分の概要や要点を箇条書きにしたり図表にまとめたりして整理する。
【読むこと・書くこと】 |
| ② | これを基に書き手の意見を英語で分かりやすくまとめてクラスで発表し、それに対する自分の意見も述べる。
【話すこと】 |
| ③ | クラスの中で更に討論を深め、自分の考えをまとめて相手を説得するための文章を書き、さらにそれを相互に読み合う。
【話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと】 |

(2) ライティングの例(英文を書く活動の場合)

- | | |
|---|--|
| ① | A L Tに日本の生活、習慣、行事などで、不思議に思ったことを話してもらう。
【聞くこと】 |
| ② | A L Tの疑問や質問に答えるために、図書館などで日本紹介の英文を活用して調査を行 |

↓	う。	【読むこと】
③	調査の内容を自分なりにまとめ、自分の意見を加えて説明文を書く。	【書くこと】
↓		
④	その英文をプリントし、各自交換して、ALTを交えた場面で読み合ったり、書いた内容について発表したり、ALTや他の生徒と話し合ったりする。	【読むこと・話すこと・聞くこと】

3 有機的関連付けを図るための考え方

言語活動を複数の領域にわたって行う統合の例として、岡（2004）は6種類の型（下図ア～カ）を挙げている。

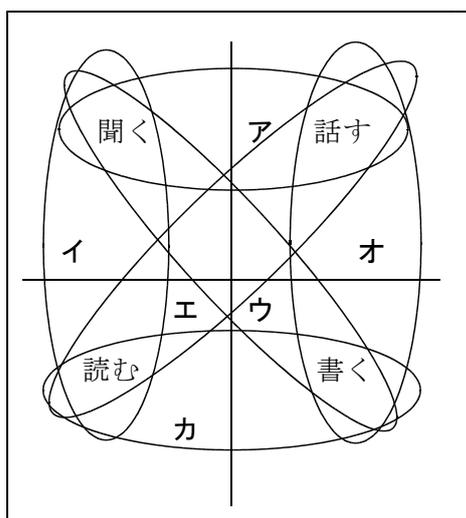


図 統合活動の関係 [岡(2004)を基に作成]

また、比較的容易に「他の技能につなげられる活動」として、図のア～カについて、言語活動例①～⑫が示されている（表3）。

表3 他の技能につなげられる活動

型	① 聞いたものを自分の言葉で再現する。（例：電話の内容を伝える。）
ア	② 相手の意見への感想、賛成、反対を述べる。（例：ディベート）
聞く	③ あらゆる対話練習（ペア・ワーク、

・	グループ・ワークなど)
話す	④ 授業における教師と生徒のインタラクション
イ	⑤ ラジオ、テレビで聞いたニュースを新聞で読む。
聞く	⑥ スピーチの聞き取れなかった部分を原稿で確認する。
読む	⑦ 教科書の文を最初は見ずに聞き、その後読む。
ウ	⑧ ノートテキング（例：スピーチ、授業、電話の内容の概要を書き取る。）
聞く	⑨ 相手の言った内容のポイントをメモ書きにして、自分の意見をつくる。（例：ディベートの反駁 ^{ばく} ）
書く	⑩ ディスカッション等を記録する。
エ	⑪ 読んで調べたものを発表する。
読む	⑫ 広告を読んで、電話で商品を注文する。
話す	⑬ テキストの本文を読んだ後、内容に関するQ&Aをする。
オ	⑭ 各レッスン終了後、内容についてディスカッションする。
書く、話す	⑮ スキットを書き、発表する。
カ	⑯ スピーチの原稿を書いて、発表する。
読む	⑰ 受け取った手紙（メール）を読み、返事を書く。
読む	⑱ 書いたもの（物語、意見、感想等）を交換して読み合う。
・	⑲ 読んだものの続きを書く。
書く	⑳ 広告を読み、ファックスで注文する。
書く	㉑ 読んだものの感想を書く。

4 領域を統合した言語活動の意義について、岡は次の3点にまとめている。

- | |
|----------------------------|
| (1) より自然で、実践的コミュニケーションに近い。 |
| (2) 内容中心の言語活動になる。 |
| (3) 英語力を定着、発展させるのに役立つ。 |

4 指導の工夫の実践例

本県の指導法改善等を図る施策の下、授業において生徒が互いに意見を出し合ったり、情報を交換し合ったりする場面を設けたりするなど、4領域の有機的な関連を図った指導が増えつつある。

ここでは「ライティング」において、自宅学習課題として生徒が進路希望についてまとめた英作文を基に、ALTとのTTによって行われた実践例を示す。この工夫により、音声による言語活動も豊富に取り入れられ、理解力と表現力の育成につながる実際の・現実的な言語活動が展開された。

◇ 「ライティング」における実践例

- (1) 単元：Future Career (4/4)
- (2) 学年：第3学年

【自宅学習課題】

次の質問に英語で答えなさい。ただし、以下の三つの条件を満たすこと。

What do you plan to do when you graduate from Tanegashima Senior High School?

① You can choose one from the following two questions.

Q(1) What would you like to study at high institution? Why?

Q(2) What kind of job would you like to have? Why?

② Please write about your plan in detail.

③ Write at least six sentences and 60 words.

- (3) 指導過程
(【ア】～【カ】型及び○番号は表3に対応)

Procedure	Students' Activities
1 Greetings	Exchange greetings.
2 Listening Test	Listen to the JTE's/ALT's dialog and fill in the blanks. 【ウ】型 A: What do you (1) to do when you finish school? B: I'd like to work in the (2) of social wealfare. What about you? ………
3 Warm-up	① Listen to the JTE and ALT.

	(JTE asks the ALT about his plan after leaving Japan, and they ask the students some questions.) ② Answer the questions. ①+② 【ア】型
4 Group Activity	○ Read others' essays and write comments on them in each group. 【カ】型(⑩・⑪) ○ Rewrite some parts of their essays after receiving comments. 【カ】型 ○ Decide the best essay in each group. 【エ】型
5 Deciding the best essay in the class	○ A representative of each group writes his/her best essay on the blackboard. 【書く】 ○ Listen to the ALT's comments and write down what he points out. 【ウ】型 ○ Evaluate the nominated essays and raise their hands for the best essay in this class. 【読む】
6 Consolidation	○ Give the reason for choosing the essay as the best one. 【エ】型
7 Closing	○ Say good-bye to the JTE/ALT.

(県立種子島高等学校 阿多慶輔 教諭の実践を基に作成)

高等学校外国語科6科目においては、指導の重点が明確である反面、他の領域との関連付けが希薄になりがちである。

以上本稿で述べたことを参考に、4領域を有機的に関連付けた指導の充実を図り、生き生きと言語活動を展開し、生徒の英語力を着実に伸ばすことがこれまで以上に望まれる。

【引用・参考文献】

- 文部省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』平成11年12月
- 文部科学省『英語教育改善実施状況調査(平成18年度)結果』平成19年3月
- 岡秀夫他著『英語教員研修プログラム対応「英語授業力」強化マニュアル』2004年7月 大修館

(教科教育研修課)